

世界遺産アカデミー認定講師 File No.53

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第53回目は、世界史をご担当されている高校講師の寺村 奈津子 さんです。寺村さんは、世界遺産だけでなく、学芸員やワイン検定講師でもあり、聖書検定、宝石検定、ネコ検定など、多岐にわたって知見を広げ続けていらっしゃいます。今回は、寺村さんと世界遺産との関わり、また、その学びの豊かさを、お話をいただきました。

——世界遺産「法隆寺」との心の繋がり

私が世界遺産に興味を持ち始めたきっかけは、1993年に「日本の最初の世界遺産」として法隆寺が登録されたことです。私は京都府で生まれ育ちましたが、奈良県に近い地域だったため、家族とたびたび訪れていて、馴染み深い場所でした。また、小学校の担任の先生が法隆寺に深い愛着を持っていて、哲学者・梅原 猛 著『隠された十字架』で語られている話を教えてくれました。法隆寺には「聖徳太子の怨霊が封じ込められている」という説や、「五重塔の相輪に鎌が刺さっている」、「法隆寺のカエルには片目がない」、といった“七不思議”、また、夢殿の救世観音が再発見された時の不気味なエピソードなどに、とても興味を惹かれました。

中学・高校時代は、キリスト教系の学校だったこともあって関心が西洋史に移ったのですが、幼い頃に法隆寺のミステリーに触れたことで、法隆寺の奥深い歴史、ひいては寺院建築や仏像に関心を寄せることになったのは確かです。日本の世界遺産の勉強も、法隆寺、奈良、京都、紀伊山地など、身近な地域の仏教が関係している物件から始めました。



2024年、シーギリヤ・ロック(スリランカ)
登頂途上のライオンテラスにて

——体験的に学ぶことの大切さ

歴史を学ぶ際に重要なのは、単なる暗記にとどまらず、実際に起こった出来事を、“ドキュメンタリーのドラマ”として捉えることです。いつの時代も、人間の喜怒哀楽の理由は変わらず、すべての出来事は原因と結果が紐づいています。その時代にタイムスリップしたつもりで、歴史の物語を“自分ごと”として捉えることが大切です。このようなアプローチで授業を展開しています。世界遺産を学ぶ時も同様で、建造や成立に関わった人々の想いや時代背景などを知ることが、世界遺産の価

値を本当に理解するための鍵だと思います。

2016年に、私は勤務校で、選択制の「世界遺産検定対策講座」を立ち上げました。その指導のため、開講前年に世界遺産検定の2級と1級を取得。コロナ禍を機に学習を再開して、2023年にマイスター試験に首席で合格しました。

私の講座では座学だけでなく、無形文化遺産に代表される日本の伝統文化や海外文化を体験する機会を多く設けています。私の古巣である国立西洋美術館訪問を皮切りに、歌舞伎や能の鑑賞、和紙漉き、写経、居合、モスク見学などの校外学習を行い、学びの意欲を高める手助けとなっています。

実際にやってみる、実物を見る、という体験が、生まれ育った国の文化への愛着や誇りを育むと同時に、他国の文化・伝統への尊重に繋がると信じています。また、高校生という多感な時期に普通の高校生がやらないような経験をさせることで、視野を広げ、将来の夢を見つけてもらえれば……という狙いもあります。ほんの少し踏み込んで学ぶことで、もっと知りたくなる。そんな授業を目指しています。

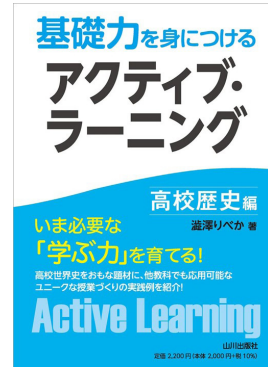


2024年に実施したオスマントルコのイベントにて(左)

——未来の展望、知識と想像力の共存

将来的には、大学生や社会人向けの世界遺産の連続講座を担当できれば嬉しいですし、他の高校に向向して、現在の勤務校と同じような体験型の世界遺産講座を開きたいとも考えています。今は「史近距離」という屋号(活動名: 湊澤 リベカ)で、世界遺産のミニ・レクチャーとワインをセットにしたイベントを時々、開催していますが、かつて添乗員だった経験を活かして、いつかはお客様と一緒に海外の世界遺産を訪ねるガイドツアーも実現したいと思っています。

私のモットーは、常に好奇心を持ち続け、



「湊澤 リベカ」名義で授業のアイデア・ブックも上梓

新しい知見を得ることです。そして、点在する知識が、世界遺産というひとつのテーマに結びついた時、世界遺産の奥深さを実感し、学び続けることの重要性を再認識できます。

今年2025年の2月には、マルタ共和国を訪れました。聖ヨハネ騎士団が築いた要塞都市パレッタの魅力もさることながら、ゴゾ島に在る世界最古級の巨石遺跡「ジュガンティーヤ神殿」を目にしたことは、とても心に突き刺さりました。その謎めいた雰囲気が、イギリスのストーンヘンジや飛鳥の石舞台、そして、酒船石を思い起こさせました。資料が少ない分、逆に推理や想像を巡らせ、当時の様子を自由に心に描く、という楽しみ方もできました。しっかりと知識を身につけ、それを踏まえた上で余白の部分を空想して楽しむ、それが世界遺産を学ぶ醍醐味ではないでしょうか。

世界遺産を実際に訪れることで、学問的な知識を超え、その時代やその土地の人々の暮らしを追体験することができます。これからも、歴史の教師として、認定講師として、世界遺産の素晴らしさを伝えていきたいです。



世界遺産「ジュガンティーヤ」(マルタの巨石神殿群)